

陸平通信

OKADAIRA 2024年12月1日発行
編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359
美浦村文化財センター (陸平研究所)
☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471
Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

体験や音楽で心豊かに陸平



土器作って
みたかったんだ～



シャカシャカ
お茶をたててみました



陸平貝塚って
どなたどころ?



親子で
まが玉作り

▲おかだいら縄文フェスタ 2024 ▼

さる10月12日(土)～13日(日)、陸平貝塚公園で「おかだいら縄文フェスタ 2024」が開催されました。

12日(土)は体験の日。縄文や陸平貝塚ならではの体験が楽しめる内容で、好きな体験をじっくり楽しむ人やいくつもの体験にチャレンジする人たちが賑わいました。

13日(日)は陸平をヨイショする会主催となる第24回縄文の森コンサート。コンサートやミュージカルでご活躍されているアルトサクソ奏者の近藤淳さんをお迎えし、プロの演奏を堪能した午後のひとときとなりました。誰もが耳にしたことのある曲の数々を、楽しいお話をまじえながら披露してくださいました。

陸平のイベントにぜひお越しください！



▲アルトサクソ奏者の近藤淳さん

木立抜けてくサクソ音色ロマン溢れる陸平 (おかだいら縄文フェスタ 2024 より)

大谷小学校



昭和28年頃「大谷」の人文字がはいった航空写真。
(校舎に沿ってみえる道は左方向が現在の125号線側、右方向がトレセン側)

大谷小学校は木原小学校と同じく150年の歴史があります。明治7年、宮本秀雄氏が大谷学舎を創設して自宅で授業をおこなったことに始まります。明治9年に大谷小学校となり、根古屋の来迎寺に場所が移りました。その後、明治19年には鳩崎尋常小学校興津分校となりましたが、明治21年の町村制により、木原村に属していることから木原尋常小学校大谷分教場（分校と同じ）になりました。

明治25年、木原尋常小学校から分かれて大谷尋常小学校となりました。その学区は宮地、茂呂、大谷、信太、興津、受領の一部で、2学級の規模でした。明治32年12月には現在美浦幼稚園がある場所に校舎が建てられました。校舎は明治35年、暴風で倒れる被害にあつたこともありましたが、児童数は次第が増えていき、校舎の増築も繰り返しておこなわれ、教室も増えました。その間、明治45年には校舎に高等科を1学級併置しています。当時、尋常小学校は義務教育でしたが、その上の高等科は希望する人が進む仕組みでした。

昭和16年の戦時下には国民学校令で大谷国民学校と改称されました。

戦後、昭和22年4月1日には木原村立大谷小学校と改称されました。昭和24年に給食炊事場ができ、学校で食事ができるようになりましたが、ご飯は各自持参だったそうです。

昭和30年、美浦村の誕生により美浦村立大谷小学校となり、5年後の昭和35年には創立85周年の記念式典がおこなわれました。

そして大谷小学校の大きな転機となったのが昭和53年、JRA美浦トレーニングセンターの開場です。東京や千葉から5000人もの方が家族で移住してくることに伴って児童も増加するため、現在の場所（興津の高台）に新校舎が建設されることとなりました。昭和47年から建設が進められ、遺跡（虚空蔵貝塚）があつたことから事前に発掘調査が実施されました。現在給食室側の出入りに虚空蔵貝塚の説明板があります。

昭和52年7月に校舎が完成し、9月から新校舎で先に授業を受けていた児童は、翌春迎え入れる700名もの新たな友だちに対してどんな思いを抱いていたのか、当時の「広報みほ」では新校舎とともに紹介しています。

大谷小学校校歌

一 霞ヶ浦に 春の風

山桜咲き すみれ咲く
門出の朝の 喜びに

みんな仲よし 手を握り
進む行く手に 光りあれ

大谷小 大谷小 わが母校
緑輝く 夏の日

二 きたえる体 たくましく
明日の郷土を になうもの

みんな仲よし 手を握り
進む行く手に 光りあれ

大谷小 大谷小 わが母校
白鷺が舞う 秋の里

三 美駒の原に 陽が昇り
若駒天に いななくよ

やさしく かしく たくましく
励む未来に 望みあれ

大谷小 大谷小 わが母校
筑波ほほえむ 冬の空

四 雲流れゆく 夢のせて
努力のあとに 春が待つ

やさしく かしく たくましく
励む未来に 望みあれ

大谷小 大谷小 わが母校

「美浦村に移ってきてくらしやことばで困ることがあるだろう、変わる人が多いだろうけれどこれまでのように良い伝統のある大谷小でいてほしいし、在校生が頑張らないといけない、新しい友だちと会えることが楽しみ」

というような内容を当時の6年生が綴っています。また、土屋地区の児童にとつては、木原小から大谷小に学区がかわる大きな転換期となりました。

昭和53年4月、トレセン関係の転入児童と土屋地区の児童が加わり、大谷小は800人、22学級という規模の学校に様変わりしました。

現在歌われている校歌は四季と校訓が歌いこまれたもので、昭和55年に誕生しました。同年11月に校歌記念発表会がおこなわれ、その開催にむけてPTAが廃品回収で経費確保する活動もありました。

村内3つの小学校のなかで一番規模の大きな学校となった大谷小学校には、ミニバスケットボール部や吹奏楽部の活躍をはじめさまざまな児童の活動の足跡が残されています。

「引用参考文献」

『わたしたちのみほ』美浦村教育委員会昭和55年

『広報みほ』縮小版』美浦村 平成3・4年

『美浦村誌』美浦村 平成7年

※本記事掲載にあたり写真提供及び情報等で山岡つぎ子氏、高橋和枝氏にご協力いただきました。



昭和15年（学校の裏庭で。戦争が始まる前で子どもたちは穏やかな表情をしています。）



昭和17年（戦時下の国民学校の頃。子どもたちの表情は硬く見え、女の先生はもんぺ姿。）



昭和27年（戦後。子どもたちは明るく着物姿はもうみられません。後ろにたつ二宮金次郎の像は現在の大谷小に移築されています。）



平成8年音楽フェスティバルでの吹奏楽部の演奏



現在の大谷小学校校舎

大谷小学校旧校歌

一 芙蓉筑波 北に見て
霞ヶ浦の ほとりなる
大谷の里の 丘高く
立つは 我等の学び舎ぞ

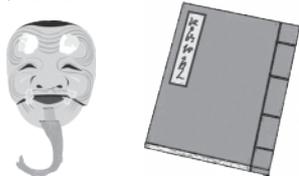
二 春は 桜の花かすみ
学びの庭に 照り映えて
強く明るく 逞しく
育つ 大谷のこの我等

三 夏は さつそう清流に
踊るは 河童か飛魚か
鍛えん 強く逞しく
世代をになう この我等

四 見よ 広々の金の波
あしたの星や 夜の月
共に励みし 勤勞の
みのりの秋の 豊かさよ

5件の文化財が美浦村登録文化財に！

令和4年4月1日に美浦村文化財保護条例が改正され「登録文化財」という制度が設けられました。村の歴史や文化、自然等を理解するために欠くことのできない文化財の中で特に重要なものは指定文化財として保護措置がとられますが、調査研究が未だ十分に行われておらず、その価値が定まっていなくても郷土の歴史を語る上で重要な文化財は数多くあります。そのような文化財を保護していくのが登録文化財制度です。このたび制度ができてから最初の登録文化財として5件の文化財が登録されました。



▼登録された文化財（令和6年11月1日告示）

種別	名称	数量
史跡	鹿島海軍航空隊跡	一括
有形文化財(古文書類)	木原村絵図	1 鋪
有形文化財(古文書類)	安中郷村絵図	5 鋪
有形文化財(古文書類)	貞享三年神内郷慶城院争論裁許史料	3 鋪
有形文化財(工芸品)	翁面(伝惣躰神社)	1 面

参加者募集

はた織り 要申込

はたおり機に糸をかけて織るまでの過程をとおして昔の暮らしを知る体験です。

◆実施日 全12回

① 1/17(金)	② 1/24(金)	③ 1/31(金)
④ 2/ 7(金)	⑤ 2/14(金)	⑥ 2/21(金)
⑦ 2/28(金)	⑧ 3/ 4(火)	⑨ 3/ 7(金)
⑩ 3/11(火)	⑪ 3/13(木)	⑫ 3/14(金)

- ◆時間 午後1時～4時
- ◆場所 文化財センター
- ◆募集人数 4名（定員を超えた場合、抽選）
※美浦村在住者で全て参加できる方。
- ◆体験料 1,000円
- ◆申込受付 文化財センター（12月22日まで）

参加者募集

三三門松づくり

自分で作った門松で新しい年をむかえましょう。 要申込

- ◆日にち 12月26日（木）
- ◆時間 ①午前10時～
②午後1時～
※①②とも内容同じ
- ◆場所 文化財センター
- ◆募集人数 ①②各8名（先着）
- ◆体験料 500円
- ◆申込受付 文化財センター（12月10日から）



参加者募集

梅朝基礎落語

令和6年の最後は落語で
楽しく笑い納め！



予約不要！
無料！

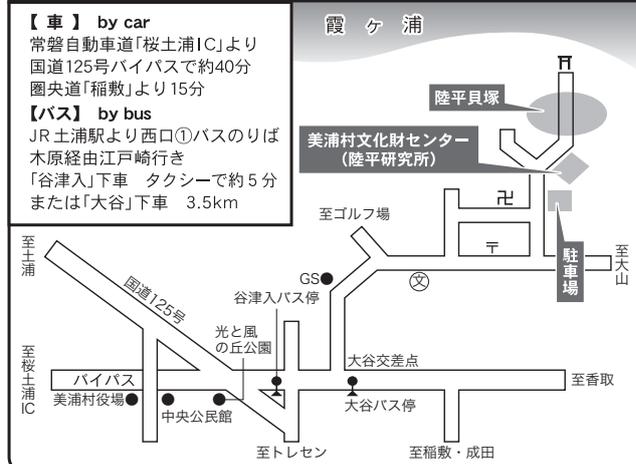
- ◆日にち 12月8日（日）
- ◆開演 午後1時30分から
- ◆場所 文化財センター
- ◆出演 好文亭梅朝

※当日、直接文化財センターにお越し下さい

陸平貝塚公園までの交通アクセス

【車】 by car
常磐自動車道「桜土浦IC」より
国道125号バイパスで約40分
圏央道「稲敷」より15分

【バス】 by bus
JR土浦駅より西口①バスのりば
木原経由江戸崎行き
「谷津入」下車 タクシーで約5分
または「大谷」下車 3.5km



◆体験申込・お問合せは、文化財センターへ◆

☎029-886-0291

文化財センター年末年始の休館日：12月28日（土）～1月6日（月）